

第3回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議概要

日 時：平成30年11月9日（金） 午後3時00分から午後5時00分

会 場：鳥取市役所 本庁舎4階 第2会議室

出席者：《委員》

山下 恭史 委員長、山下 博樹 副委員長、川口 有美子 委員、河崎 誠 委員

田村 康悦 委員、徳本 敦子 委員、松本 公彦 委員、小草 真帆 委員、谷口 稜 委員、

《鳥取市》

河川行財政改革課長、河上行政経営係長、藤原主任、岩田主任

会議概要（事務局による要約）

1. 開会

河上係長：

それでは定刻となりましたので、これより第3回行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本委員会の設置要綱第5条第2項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と規定されていますが、本日は全10名のうち9名の方にご出席をいただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。では、山下委員長より開会のご挨拶をいただきます。

2. あいさつ

山下恭史委員長：

皆さま、こんにちは。立冬を過ぎまして朝晩が寒く感じるようになってきましたが、日中は少し暑い日もあって、気温変化の大きい時期でございます。そんな中、本日は多くの方にお集りいただきありがとうございます。

前回の委員会の後、仕事等で関西や四国、九州などに何度か行ってまいりました。今年是非常に災害の多い年でした。各地で災害の爪痕はまだ残っておりますが、地域経済の営みというのは力強いなと感じました。例えば熊本城などはクレーンが並んで修復を行っているんですが、過去の写真ですとか、どこがどう壊れたか、なぜこのエリアが文化財になっているのかというようなパネルが随所に設置されておりました。災害を単に悲しむだけではなくて、現実をしっかりと見てもらったうえで、協力してもらえるところは観光客にも協力していただくという姿勢があつて、非常に共感を覚えました。また、鹿児島ではまだ「西郷どん」の効果が出ておまして、マスコミのPR効果というのは非常に大きいんだなと思いました。このほか各地でいろいろな経済の動きがありましたが、鳥取市でも新庁舎の鉄骨が大きくそびえ立って見えるようになってきましたし、鳥取西道路の準備態勢も整ってきました。市政の一翼を担う市議会議員選挙ももうすぐ始まります。マスコミ報道では世代交代というのも出てくるということで、少し賑や

かになってくるだろうと思います。私たちの委員会も少し新たな動きが始まりまして、今回からはいよいよ具体的な議論に入っていきます。これまで、資料を読んでいただいてそれぞれご意見も頂戴しておりますが、この場でも活発な議論を交わしていきながら、私たちも市政への参画を果たすべく、委員としての活動を頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくをお願いします。

3. 議事

河上係長：

ありがとうございました。それでは以後の進行は委員長様にお願いいたします。

山下恭史委員長：

本日の次第がお手元にございますが、二次評価結果の報告ということと、ヒアリング対象事業の選定ということです。

ではまず二次評価結果の報告から、事務局よりお願いします。

岩田主任：

それでは二次評価結果についてご報告させていただきます。資料1をご覧ください。
(資料説明)

山下恭史委員長：

今、事務局から資料に基づきご報告をいただきました。この報告を見ていただいたらお分かりになるかと思いますが、A、B、Cの判定をそれぞれ皆さんにつけていただきまして、合計すると9にしかありませんが、実はこれは私が事務局の集計までに書面が提出できていなかったものです。申し訳ございません。ですが内容については一通り評価もコメントもしておりますので、必要なものについては後日でも修正させていただければと思っております。

それではこの二次評価結果の報告についてですが、ここでいただいている評価及びコメントについて、追加でこう思うとか、読み直してみたら私の評価は違うような気がするということがもしあればおっしゃっていただければと思います。あるいはこの関係でもう少し資料がほしいといったことでもあればおっしゃっていただければと思います。もし無いようでしたら、本日の議事の次の項目にありますように、ヒアリングの対象事業を決めていくこととなりますので、その事前準備として、今事務局からいただいたこの報告へのご意見なり修正なりといったことでもいただければと思います。いかがでしょうか、皆様からこの報告についてご意見等ございませんか。

少しお考えいただいているようですのでその間に聞いていただければと思います。今回の二次評価の結果を見ても、比較的「妥当である」という評価が多かったという風に思っております。これは、前期の委員会での評価結果も取り入れながら今回の自己評価をしていただいた成果もあるのかなと思っておりますが、少し私の方からコメントをさせていただけたらと思います。まず ID1 の「円滑な中核市への移行の推進」

ということなんです、確かに中核市になって、市民の手続きの明確化であるとか窓口のワンストップ化ということで、迅速化等については今後さらに環境整備も行われてサービスが向上していくことは期待しております。それは、ひいては住みよいまちづくりに繋がるんだらうと思いますが、一方で中核市の関係のパンフレットを見たときに少しわかりづらいのが、中核市に見合ったインフラ整備ですとか、中核市となった後の産業政策であるとか、未来への展望とか夢のようなものがちょっと乏しいなという風に思いました。だから中核市というものが分かりづらいということがあるのかと思いますので、夢のある施策などを示していただけたら、市民も、中核市になったらこういうことをしてもらえんだとか、こういったことを頑張れるんだという風に思っていたらいいんだらうと思います。それと ID2 の連携中枢都市の関係ですが、ここでは非常にたくさんの 90 の事業に取り組まれています。これは積極的に近隣と連携した結果だとは思いますが、この中で優先順位を付けないとうまく進んでいかないのではないかと思います。当然周辺の町と連携していかなければいけないんですが、やはり人口が集中しているこのエリアをどうしていくかという風に考えていかなないと、あまりにも事業が多い中で、鳥取市の職員が保健所はともかく大きく増えているわけではないので、遅れていく事業が出てくるのではないかと思います。また、次の ID3 のシテイセールスなんです、本当にこの S Q というのが必要なのかということが気になっております。皆さんからのコメントにもありますが、S Q のアクションプランの全体像が非常に分かりづらいものです。さらに、私は経済団体の会合などにも出席しておりますが、その中で S Q というものは全く出てこない。S Q がエリア外への発信とか P R と言いながら、実際のところは内部向けなのではと感じています。本当に鳥取のブランド力を上げようとしているのであれば、これだけでは足りないだろうなと思います。まだまだたくさん思うところはあると思いますが、この実施計画についてまた議論することがあればその時にしたいと思います。それから例えば ID80 のアダプト制度のところは、皆さん比較的高評価なんです、ここの目標設定が妥当なのかどうかというところに疑問があるのと、内容を見てみると、この制度で管理する対象が広範囲であるということからやっただけの団体が少ないんだらうと思います。福岡県の久留米市などは 1 平方メートルの道路わきの花壇ひとつでも対象とされていて、花壇ごとにアダプト制度での管理ということをしておられます。そういう風に中身を考えて行かないと本当に市民との協働というものにはなっていないのではと思います。あとはその次の ID10 のところですが、これも皆さんほぼ妥当と判定されていますけれど、これは、以前の委員会でもなぜグリーンカーテンなのかという議論があったことがあります。今はグリーンカーテンをやめて L E D の設置になっていますが、そもそもこの事業目的というのは「省エネ活動の推進による学習環境の改善」であって、L E D は単なる経費の削減策ではないかと思っております。ですからこれが本来の目的に繋がるのかという観点から再度検討してほしいなと思っております。

他にもたくさんありますが、全部言っていくわけにはいきませんのでこのあたりで終わりますが、このように見て行くと、中身としてはまだ議論の余地があるようなものもあるような気がします。これはまた付け加えさせていただくか、報告書の時にまとめるかは検討させていただければと思いますが、このような意見もあるということで、いくつか例を挙げてお話しさせていただきました。

すみません、では元の話に戻りますが、皆様の方から、評価の変更であるとかご意見があればお伺いしたいと思います。無ければヒアリング対象事業の選定に入りたいと思います。

山下博樹副委員長：

よろしいですか、私も前期委員をさせていただいて、この二次評価をするのは2回目なのですが、先ほどの資料1-2にあったように、平成28年度結果に比べると「妥当でない」と付けた数が減ったように思います。一つはこの評価シート作成された職員の方々が少し慣れてきたのかなということと、指標の設定なども少し改善されてきているのかなという印象を持ちました。達成状況は概ね良好というものが多かったのですがその一方で、いくつかの項目にコメントとして書いたのですが、スピード感がないもの、ずいぶんゆっくりやっているなというものがあるとかあったり、あるいはID7やID8のところに書いてあるんですが、重要なガイドラインや方針の策定というのを2年間延期するというようになっていて、これが半年遅れるということは何となく理解できるんですが、2年というのはちょっといくらなんでも遅すぎないかと思いました。そういうものを含めてもう少しスピード感というのが今回の二次評価を実施した結果としてももう少し求めて行ってもいいのかなと思ったところです。

山下恭史委員長：

私も同様に思ったところがいくつかありまして、ID5の都市計画マスタープランですか、さきほど副委員長が言われたID7、ID8。こういうものがいくつかありますので、それらも見させていただいて、ヒアリングをどの事業にするかを決めて行かないといけないと思います。

どなたかこれはヒアリングをしてみたいというものを1つでもいいので挙げていただけたらと思います。今日はこの事業選定をするのが大きな目的ですので、議論もしながら決めていけたらいいかなと思います。

山下博樹副委員長：

前期はヒアリング対象を選ぶときにどのような話し合いをしたか、どういう観点で事業を選ぶのかというのを少しご説明いただけるとありがたいんですが。

岩田主任：

前期は、一番初めに集まっていた時に、第6次行革大綱の実施計画をざっとご覧いただいて、興味のある分野を挙げていただきました。そこで皆さんの興味が集中するようなもので、かつ鳥取市が予算編成をするにあたっての当時の方針と合致するよ

うなものの中から皆様に決定していただいたという経緯です。

山下恭史委員長：

鳥取市が重要と考えておられて、これらについて議論していただけるとありがたいという意向と、委員のこういうもののヒアリングがしたいというものを挙げていただいて、それで調整して決めたということですね。

お一人ずつご意見をお伺いしましょうか、特にお任せしますということであればそのように言っていただければ結構ですが、松本さんいかがですか。

松本委員：

事前に資料をいただきまして、すごいボリュームでしたが一生懸命見させていただきました。委員長の言われた内容も改めて聞いてみると、ああそうなんだなと思ったり、皆さんの意見を見て思うところがありました。進め方のことについてになりますが、ここで出た質問や意見については今後また何か返ってくるのでしょうか。

岩田主任：

今回の資料の中で、右側の自由記載に記号を付けていますが、現時点では黒四角を付けたものはお答えを返させてもらおうかなと考えているものです。ですのでこれを見ていただいて、今は白四角になっているけどこれも回答してくださいというものがあれば言っていただければ、それも含めて後日回答を用意させていただきます。

松本委員：

皆さんに配られますか。

岩田主任：

はい、この委員会の中で資料としてお配りしたいと考えています。

山下恭史委員長：

ちょっと分かりにくかったかもしれないので、再度元に返ってお話ししますと、ヒアリングをどれに対してしようかということで、事業選定をする段階入っております。今後どういう風にしていくかといいますと、例えば先ほど申し上げたように、4つ前後かなと思いますが事業選定をして、追加資料がほしいということであれば追加資料を担当課に事前に求めます。そしてこの委員会に担当課においていただいて、この事業はこういう趣旨でやっているという説明を聞いたり、委員の方々から質問や意見交換をして、委員会としてその事業を評価していくということになります。過去の委員会の報告も資料として出させてもらっていますが、この事業は続けてくださいとか、もうやめた方が良いですというようなことも言ってきたことがあります。最終的には報告書というようなものにまとめて、この事業はいかがなものかと思えます、あるいはこういう風に直していった方がより良い事業になると思えますということを委員会からの提言として、市長さんにお伝えするということになります。当然時間的にヒアリング対象に選ばれないものもありますが、それは別途、資料やコメントがほしいということであれば言っていただければ、お答えいただけたと思います。とにかく今後は、担当課にここに

来ていただいて、事業内容や進捗度合い、成果などについて聞き取りをしながら、引き続き頑張ってくださいとか、あるいはもっとペースを上げていかないとだめじゃないですかとか、この事業は税金を使っているけれど本当にこのやり方でいいんですかというようなことも意見交換をして、最終的に委員会の中で議論して、この事業は廃止した方が良くないかということが出るかもしれませんし、引き続きやるにしてもこういう風に軌道修正した方が良くないんですかということも出るかもしれませんが、そのような提言をこの委員会でまとめて報告書にして市長さんに提出するという流れになります。

川口委員：

よろしいですか、そのヒアリング対象事業の選び方ですが、各委員にどれがいいですかとお訊ねしても、皆さんお立場もそれぞれですし関心も違いますのでなかなか。せっかく私たちは二次評価で担当課の評価が妥当かそうでないかを判断したわけですが、皆さんが妥当であると評価したものを改めてヒアリングをしていろいろ聞き取りをすることは無いと思うので、例えば資料1-2の分からないと回答した方が二人以上いるとか妥当でないとした方が二人以上いるとか、そのあたりに絞ってしまって、分からないからもうちょっと聞いてみたいということがあるかもしれませんし、妥当でないということはこの先本当にその事業を継続する必要がないかもしれませんから、事業選定の仕方の一つとして、分からない、妥当でないというのが複数あったものに絞って、そこから皆さんにご意見等伺ってピックアップしていくというやり方の方が良いのではないかと思います。

山下恭史委員長：

はい、ありがとうございます。他にもご意見はございますか。

河崎委員：

よろしいですか。ちょっとピントが定まっていないのが、二次評価というのが、市の方がされた評価に対する評価と聞いていたんですが、そういうことであれば、市の方がされた評価の中で達成度がCとかDとか低いものに対して、その通りであれば妥当だということになるんですけど、それが先ほどの話で言うと、妥当だからということで話題から消えてしまうことになりますよね。要は達成していないのに話し合いはしないのかと言うと、なんだかそれも違うような気がします。例えばふるさと納税なんかはすごく興味が高いものなのに、達成度がCになっていて、それはまあ妥当だろうと言うことでそこで埋もれてしまうというのはどうなのかなと思いますので、ピントとして、評価に対する二次評価ということで考えていくのか、より興味や関心の高いものや重要なものに絞っていくのかっていうのは、ちょっとどちらに焦点を当てていいのか私の中でははっきりしていないなと思います。

徳本委員：

私も同じ意見です。

山下恭史委員長：

もう一度繰り返しますけれど、例えば二次評価結果の1ページで行けば、ID5のところは「都市計画マスタープランの見直し」そして「立地適正化計画の策定」となっていますが、これは市自体の進捗度、達成度の評価はどちらもCなんです。これに対して二次評価結果は、妥当であるが8名ですから、市民委員会としてはまあそうだよねと言うことになっています。またID79の「すごい！鳥取城キャンペーンの実施」というものに対する私たちの二次評価結果は8名が妥当である、わからないが1名ということなんですけれど、実際の事業の進捗というのがどうかと言うと進捗度もD、達成度もDということなので、そこのところも少し考えていただいて、必ずしも二次評価でAが多いから良いということではないという部分をきちんと見ていただければと思います。あくまでも担当課の評価がどうかということだけであるというものです。次のページのID7「鳥取市協働のまちづくりガイドラインの策定」は進捗度C、達成度Dですし、さらにその下のID8「地区公民館の活用の基本方針の策定」もCとDであったりすることですね。さらに3ページのID21「すごい！鳥取市婚活サポートセンターの運営」は進捗度がC、達成度がDというようなところですので、両方合わせて見ていただく必要が若干あるかなと思います。このほか鳥取市の方から、これも検討してほしいというものが資料2にあります。ここにヒアリング対象事業の選定方法事務局案と書いてございますけれども、これは行財政改革大綱に3つ総合目標というのがあります。その下にいろいろな事業があつて、そこところがいま私たちが見ている実施計画となります。大きなところとしてはこの3つの総合目標を最終的には達成したいということになるんですが、目標1が「税込254億円以上の実現」目標2が「ふるさと寄附金4億円以上の実現」目標3が「15歳以上40歳未満の転出者数を転入者数の範囲内に収める」ということで、これが行財政改革大綱の最上位の目標です。実は前期の委員会でもこれを念頭に入れながら事業評価をしたんですけれど、ここまではあまり踏み込めていなかったということがありまして、次はここに踏み込んでまいらうというのが課題と言いますか、申し送り事項としてあります。そういうこともあつて今回の資料2に書いてあるようなものを議論していただきたいというのが事務局の案です。もちろんこれをするかどうかは私たちが決めればよいことにはなりますので、一応そういった意向があるということを頭の片隅に置いて、この委員会はこの委員会で事業選定をしていければいいと思います。

山下博樹副委員長：

事務局に質問ですが、今回の評価シートの中のコスト等のところに、従事者数という、要はどれだけマンパワーを割いているかという項目を新しく増やしていただいているんですけれど、この数字が大きいということはそれだけ市として力を入れているという風に読み取って良いものでしょうか。事業によっては0.1というものもあれば2以上のものもあつたりして、それに関わっている人の数が違うんですが、これは力の入れ

具合が違うという風に見ていいのか、ただ手間がかかっているだけの話なのか、一概には言えないかもしれませんが、そういうものももしかしたら判断基準になるのかなと思います。例えば ID29 などを見ると、達成度なんかは悪くないし、マンパワーもそんなに掛けていないということになると、そんなに心配しなくても順調に進んでいるような事業なのかなという気がしないでもないです。その辺のところはどうなのかなと思いました。

山下恭史委員長：

ここの項目は前期の委員会ではなかったんですよね。どのくらいの費用や人がどのくらい掛かっているのかが記載されていなかったので非常に分かりづらかったということがあって、今回からは入れてもらうようにしております。これも参考にしながら事業を決めていただければと思います。

山下博樹副委員長：

それで、先ほどの質問ですが、人数が多ければ力を入れていると考えていいのでしょうか。

岩田主任：

事業によってそれぞれにはなるんですが、例えば ID13 の「地域推進型移住定住の促進」などは他の実施計画に比べて多くなっております。もちろん移住定住なので力を入れている事業に間違いはないんですが、人数算定の考え方としてこの中に移住交流情報ガーデンの職員さんが入っています。ガーデンの職員さんは仮に 3 人いればその方たちはこの事業に 1 年間ずっと付きっきりになっていますので、プラス 3 人されてしまいます。一方他の事業で、仮に経済雇用の関係で、経済活性化のために大きな補助金を出すというような非常に重要な事業があったとします。ただその事業が、事務作業レベルで見れば、私のような事務職員が補助金を支払うという手続きのみというものであれば、1 年間まるまる一人が付きっきりというわけではないので 0.1 というように、数字はぐっと下がってしまうということになります。ですので必ずしもここの数字が大きいものが市として最重要ですという形にはなっていません。

山下博樹副委員長：

参考になるようなならないような。まあでも以前は分からなかった数字を出していただいたというものです。

山下恭史委員長：

はい。ただまあ、そういう事業に本当にその人数が必要かどうかというようなことを考えることも必要かもしれませんね。

谷口委員：

よろしいでしょうか、河崎委員が、二次評価はあくまでも担当課の評価に対する我々の評価であるとおっしゃっておられましたが、私も同じ意見です。これからヒアリング対象事業の選定という作業を行うのであれば、我々の二次評価のシートに、担当課評価

に対する評価欄だけではなくて、事業そのものに対してどう思うかという評価欄というものを付けることは可能でしょうか。そうするとこの先の作業がもう少しスムーズに進むかなと思います。

岩田主任：

資料1の二次評価結果の一覧に、担当課が付けた達成度などを加えるということでしょうか。

谷口委員：

そうではなくて、事業そのものに対して、評価と言うと言い過ぎかもしれませんが、どう思うかくらいのことを、何段階かに分けた記入欄を設けるなどすることで、今の作業がもう少し先が見えるというかスムーズに進むのではないかと考えたところです。

山下恭史委員長：

すみません私から良いですか、先ほど担当課の評価シートに従事者数を加えてもらったという話をしましたが、この様式を変えてもらうのに、コストが掛かったりするんですよね。それともう一つ、仮に私たちの評価欄をフォームとしてここに加えるとして、その評価というのは何を見て評価するのかということになるのですが、それはここにある資料をベースにして自分自身で市のホームページを見たり担当課に行ったりして聞くしかないんですよ。そうすると各委員さんにそこまでしてもらうのかということもありますし、個別に担当課さんに行くとなると職員の方も都度全員に対応することも大変ですので、結果的にこのような形になっているという風に私自身も理解しているところです。

川口委員：

今ちょっと混乱が起きているのは、ヒアリングの位置づけというか、ヒアリングをする意味が、皆さんの中で共通理解ができていないんじゃないかと思います。二次評価結果を補完するような目的でヒアリングをするのか、そもそもこの事業って、という意味合いで担当課の方をお呼びしてみんなでやり取りをするのか。私は前者のイメージだったので、あくまでも二次評価結果がわからないとか妥当でないというもので絞り込んでみてはと言ったのはそういう意図があったんですが、先ほどの話であったように、この事業そのものの進捗が遅れているものに対して発破をかけたいとか、もっとスピーディーにやってよとか、そもそもこれ意味あるんですかというような位置づけになるとそういうことになると思うので、ヒアリングをなぜするのかというのを共通理解した方が良いのかなと思います。

山下恭史委員長：

それは両方あると思います。あくまで二次評価の結果をベースにして考えては行きますが、先ほど少し取り上げてお話ししましたが、担当課が自己評価した進捗度とか達成度ありますよね、これらが低いものを詳しく聞いてみたいということでも構いませんし、いやいやよく見たら予算も大して使っていないしそこまで人も掛かっていな

いので、担当課に来ていただいてヒアリングするまでには及ばないよねということもあるかもしれないです。

河崎委員：

評価に対する二次評価を我々がする意味合いというかがちょっと分からないなど。市の職員が自己評価でこれは進んでる、これは進んでないと言っているものに対して、我々がそんなことないよと言っていることでもあると思うんですが、それ自体に何か意味があるのかなとやりながら思っていたところがあります。前回の委員会で二次評価の意味合いを確認させていただいた中で、担当課がやっている取り組みに対しての評価はどうしたら良いですかとお訊ねした時に、横の自由記載欄に書いておいてくれということだったので、それは書いてはあるんですけども、そっちの方が意味合いとしては大事なのかなと私は思っていました。職員の方の評価に対する評価っていったいどうなんだろうというのは多分共通で思っておられるところがある方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。まあそれで見えてくることもあるんでしょうけれど。

徳本委員：

私も聞きたいです。

岩田主任：

このたび皆様にしていただきました二次評価と、今後皆様をお願いしたいヒアリングですが、考え方としては区分けしております。まず二次評価に関しましては先ほどお話しいただきましたように、我々が自己評価した結果に対して、いやいやあなたたちの評価は甘すぎるんじゃないかとか、そういったものを外部からご指摘をいただくことで、内部で評価する仕組みをブラッシュアップしていくものです。その結果として、今日ご説明させていただきましたが資料1-2に示す数字として妥当である、つまり外部から見ても市の職員の内部評価はちゃんとしているねという割合が増えてきていますが、これは皆様から頂いた二次評価の成果として出ているもので、そのように活用させていただいております。また、二次評価をいただくにあたっては、皆様にたくさん資料をお時間を使って読み込んでいただきました。ですので、単に市の自己評価がどうですということだけではなくて、ご意見として、私はこの事業に関してこう思うということがあれば一緒に記入していただきました。これは、このようなご意見もあるということで内部で参考とさせていただきますが、ヒアリングの際にもここから議論を広げていただければというものです。

ヒアリングに関しては、自己評価がどうであったかということではなくて、その事業そのものが市にとって必要なものであるのかとか、効率的にあるいは効果がしっかり出るようにされていますかというのを外部の目線でご指摘いただいたりですとか、場合によっては、もっとこうした方が良くなるんじゃないですかというようなご意見とかご提言をいただいて、その事業そのものをよくしていきたい、もっと成果を上げていきたいというものです。ですからヒアリングに関しては事業そのものに対して判定し

ていただくので、進捗度や達成度というところを重視していただくことも重要ですし、当然二次評価の時に出していただいたご意見というのも参考としていただくですとか、先ほど川口委員が言われたように、自分の評価が甘いんじゃないのとか、進んでいないのに進んでいると自己評価しているけど、これはなんとかしないといけないんじゃないですかという切り口から入っていただくというのも考え方の一つとしてはあると思います。ただ、目指していることとしては事業の効率性ですとか、効果的な事業になるように皆様からご指摘とかご意見をいただきたいというのがヒアリングの目的と考えています。

山下恭史委員長：

もともとこの委員会の所掌事務というのが設置要綱に3つ書いてありまして、一つは、行財政改革大綱の決定、推進及び見直しに際に意見を述べること。これは次の大綱の策定が今後行われますのでこの委員会でやることになります。二つ目は、行財政改革の実実施計画に盛り込むべき制度やシステムについて研究立案すること。これについても新たな大綱を作る際には入ってくるかもしれないし、このような議論の中で出てくるかもしれません。そして三つめ、実施後の行財政改革実施計画事業の結果に対して、評価を行うこと。これを今私たちはしているんですが、ここの言葉をそのまま読めば、結果に対して評価を行うということになります。現在の第6次行財政改革大綱は平成27年度から平成31年度までなので、その結果というと平成32年度になってしまいます。それからコメントしたところでもう取り組みは終わってしまうので、私たちは途中で評価を繰り返していくことになります。その時の一つの参考意見として、市の担当セクションがその時点でこういう風にやっていますという評価が分からないと、何も情報がないところで私たちが評価できるかと言うとそれは多分無理だろうと思います。ですから、事業そのものを評価しますというのは今後やっていけばいいんですが、少なくとも市の担当セクションがどういうことをやってそれをどう評価しているかというのはそれなりに参考になっていると思います。私たち外部の人間が事業を見てそれがどれだけ進捗しているかというのは、担当課からの進んでいるとかやや遅れているとかいう情報がないと多分難しいと思います。75もある実施計画を全て理解して評価するのは非常に難しいと思うので、担当課が設定している指標を見たりだとか、もちろん指標自体がどうかという議論もあるかとは思いますが、そういう数字や自己評価も参考にしながら評価するということにならざるを得ないんだろうなと思っています。ですから途中で、皆さんが妥当であると書いていただいたものが多かったということと併せて、私の意見としていくつかの事業についてのコメントもお話ししましたが、確かに妥当であるという判定が多いというのは過去の委員会の意見が反映されているという面もあるんですが、一方で、わからないとか妥当でないのものが思いのほか少なかったのは、まだ今の時点で担当課の事業の内容が理解しきれていないということもあるのかもしれない。実際のところ膨大な数の事業がありますのです

べてを理解しきるのは難しいと思いますから、担当課の評価というのはあくまでも判断材料の一つとして考えおりますので、二次評価というのはベースとなるものとしてやれば良いと思っていますし、その必要性がどうかということであれば、それは今後のこととして検討していけばいいと思います。何もない中で事業そのものを評価していくのはちょっと難しいだろうなと思います。この委員会も数カ月に一回しかありませんし、資料が配られたときにきちんと読み込めて議論していけるようになるにはもう少し委員会の回数を重ねて、時間もたくさんとった上で議論を深めていければいいかもしれませんが、皆さんの負担にもなりますので、一つの判断材料の提供だという風に理解してもらった方が良くかもしれません。でもまあ今後そういうやり方も取りたいということであれば、担当課の評価シートのフォームを変えることは簡単ではありませんが、次年度以降のやり方として検討していければいいかと思います。

山下博樹副委員長：

担当課の評価シートの方を変えるのは難しいと思いますが、今回まとめていただいた二次評価結果のところにA、B、Cだけですけれど、この横に実際の進捗度と達成度がどのように記載されていたのかを載せて、照らし合わせて見比べられると分かりやすい資料になったのではということだと思います。

松本委員：

パッと見、CとかDというのはそんなに多くはなかったなのでその作業自体はそんなに難しくないのかなと思います。先ほどの河崎委員さんと川口委員さんの合わせ技のような感じにするほうが選びやすいかと思います。

山下博樹副委員長：

先ほど委員長が補足で説明された事務局案は前期からという話もありましたけど、今回の二次評価結果を見るとあまり皆さん疑問を感じていないというか、質問もありませんし、私もこんなものかなと思ってみたところでしたが、この辺を取り上げたらどうかと思われた、市としての課題がどのようなものを補足していただけると我々もイメージがしやすいんですけれど。

山下恭史委員長：

それは前の委員会での、こういうところの検討が出来ませんでしたねという反省点だったので、そこから来ているものですよ。

岩田主任：

ただいま副委員長からそれぞれのIDの課題があるかというご質問いただきました。事務局案は各総合目標にダイレクトに影響するだろうと思われる実施計画を並べているものですが、改めて各IDのご説明をさせていただきます。

(ID29、30、31、32、33、35、13について説明)

山下恭史委員長：

はい、ありがとうございます。一応鳥取市さんからはこれらを検討していただき

たいということなのですが、それを念頭に置きながら、皆さんもこれを検討していきたいということがあればそれをお聞きしたいと思います。

河上係長：

(追加資料配布)

ただ今、二次評価結果の欄の横にそれぞれの進捗度と達成度を追加したものをお配りさせていただきましたので参考までにご利用ください。

山下博樹副委員長：

資料2-2のところに過去のヒアリング状況が書いてあるんですが、なるべくだぶらない方がやはり良いということなのか、なかなか改善されないものは再度突いても良いというものなのか、その辺はどうでしょうか。例えば先ほどの婚活なんていうのはかなり取り上げましたけど、今回もあまり自己評価が高くないですね。

山下恭史委員長：

それは前期のときに廃止というところまで踏み込んで話をしましたので、どういう状況ですかと聞くのはありだと思いますが、ヒアリングまでいく必要があるかどうか。

岩田主任：

事務局案の資料2-2の想いとしてはなるべく別のものにしていただいた方が幅広くできるかなというところがございます。

山下恭史委員長：

だけどそのまま事業を続けられると、この委員会の意見は何だったのかということになるので、それはどういうことで続けられていますかというのを何かの機会に返してはいただきたいですね。

新たな資料もまとめていただきました、進捗や達成が悪いものはそう多くはありませんのですぐ見ていただけるかと思います。これを受けて、いくつものでなくて結構です、私はこれが良いというものの候補を挙げていたがけたらと思います。

山下博樹副委員長：

進捗や達成が悪いものの中で、すでに7期8期でヒアリング済みなのが3つあって、それがID7とID21とID22です。

山下恭史委員長：

河崎さんいかがですか。

河崎委員：

はい、絞れるとかえって難しいところもありますが、先ほどの婚活もそうなのですが、過去にヒアリングをして委員からいろいろ意見が出たのにまた評価が低いものに挙がってくるというのは、どうかと思いますのでヒアリングした方が良いかと思います。婚活は特に厳しい意見がありましたのでした方が良いかと思います。あとはふるさと納税についてもいろいろ状況が変わってきてますので、税収の部分も含めて大きな話かなと思います。逆に事務局案として挙げていただいたID29～33については当然実施す

べきことだと思いますし、評価シートだけ見ると順調に進んでいる内容のようですの
でヒアリングまでは必要ないのかなと個人的には思います。

山下恭史委員長：

松本委員さんいかがですか。

松本委員：

この、新たに作っていただいた資料とは違うものですが、右側の自由記載の内容
を見ている中で、新しい動きに対しては市民の皆さんもどういうものなんだろうと疑
問があるんだろうなと思います。そのように考えると、ID4 の麒麟のまち観光局ってど
うなのという意見が記載されているので気になるのと、ID37 の農林水産物の販路拡大
の取組についても分からないという方が 2 名いらっしゃいますし、地域商社自体もで
きてまだ間もないということがありますので、このあたりはどうかと思います。

山下恭史委員長：

徳本さんどうですか。

徳本委員：

鳥取市さんの掲げている目標に税収 254 億円以上とかありまして、これは多分やら
なくてはいけないものだと思うんですけど、私はやはり保育の事業をしている中で
疑問に思うことなどがありまして、それを考えると ID12 の市立保育園の民営化ガイド
ラインの見直しという部分と、ID23 の多子世帯への子育て支援の強化とか、ID24 の放
課後児童クラブの教育ですとか保育の部分、あと移住アドバイザーもしておりまして、
それと絡めての ID13 地域推進型移住定住の促進、移住をしてきたいという人は結構い
るんですが、空家がないことで実際 2 年待って 2 年後に引っ越してきた人もいたりと
か、そのあたりの問題提起も含めてのところですかね。土地に関しても移住者を迎えて
にぎわいをという文章もあったんですが、住まいに関しては市街化調整区域の壁がす
ごく厚くて、移住される方って市街地に住むよりも田園風景の見える外れたところを
希望されることが多いんですが、そこに家を建てられないという矛盾が多くて、でもそ
れをどこにお伝えしたらいいのかもわからずというようなことがあります。そういう
ことをヒアリングで聞いてみたいと思います。

山下恭史委員長：

川口委員さんどうですか。

川口委員：

まず総合目標 1 に関わる 5 つの項目については、先ほど岩田さんの方からご説明い
ただいて、多分担当課がいらしても同じような説明をされると思います。私自身は質問
したいことも思い浮かばなかったもので、同じように言われてしまうと、あーそうすか
で終わってしまうと思います。たぶん皆さんも税収の手段についてはなかなか難しい
と思いますのでヒアリングするまでもないのかなと思います。個人の関心としては ID3
のシティセールスとか S Q のあるまちというところです。妥当でないという方が二人

もいらっしやいますし。それから ID6 生活交通網。これも二人妥当でないという方がいらっしやいます。あとは ID82 高齢者の介護予防のところ。わからないという方も二人いたのと、他自治体ですが最近学校でも元気な高齢者が学校などに入ってきてボランティアをしたりというような動きがトレンドだったりすることもあり、個人的にも関心がありまして聞いてみたいと思いました。

山下恭史委員長：

田村委員さんいかがですか。

田村委員：

まず事務局さんの案ですが、皆さんもおっしゃられていたように ID29～33 に関しては事業内容も概ね順調のようですのでヒアリングは必要ないかなという風には感じません。あとの ID35 と ID13 に関しましては、ID35 の方は評価も低かったようですし、内容的にも興味のあるものですので聞いてみたいというような思いもあります。また前委員会でもされたということではあるんですが、やはり先ほどからお話に出ています婚活の ID21 と不妊治療制度の拡充の ID22、このあたりがまだ評価が低いということであれば少しお話聞いてみたいとは思っています。

山下恭史委員長：

谷口委員さんどうでしょうか。

谷口委員：

まず学生の立場として気になるのは ID20 の「登録制に基づく…」というものです。二次評価結果のコメントでも触れられているんですが、一年生から始めるべきという意見には僕も賛成です。やっていないことはないんですが周知の度合いがまだまだかなと思います。それでこれについてお訊ねしたかったんですが、この事業は 8 期でヒア済となっていますが、その時はここについてどのような議論だったか教えていただけませんか。

山下恭史委員長：

簡単にお答えします。「登録制に」とあるんですが、そもそも学生さんたちは登録しない。登録件数も少ないという状況で、登録に力を入れるよりも他の施策をやった方が良いんじゃないですかというような話でした。

谷口委員：

ありがとうございます。他は、これもヒア済で申し訳ないですが ID21 の婚活サポートセンターです。個人的な考えなんですけど、行政主体で行うことに疑問符があつて聞いてみたいと思います。あとは ID35 のふるさと納税です。少し前にもニュースでやっていのように問題も挙がっていましたが、先ほどおっしゃられたようにシステム自体も基準も変わってきているということがありましたので、今一度見直してみるというのがいるんじゃないかなと思います。

山下恭史委員長：

小草さんどうですか。

小草委員：

まず事務局から挙げられていた総合目標1についてなんですが、かなり順調に進んでいるようなのでヒアリングは必要ないと思います。ふるさと納税については納税額が減少しているということと、システムが変更されたことによって今後回復が望まれるのかということについて気になるなと思うのでID35はヒアリングしてみたいと思います。その他で気になったことなんですが、ID6の公共交通のことについてなんですけど、スピード感が欠けているというコメントも気になりましたし、取り組みについてもこの程度で良いのかそうではないのかとか、そういうことについてヒアリングしてみたいなと思いました。

山下恭史委員長：

副委員長どうですか。

山下博樹副委員長：

実は私の個人的な印象なんですが、市民サービスが低下していないだろうかと思っ
ていまして、一つは先ほど何人かの方も言われましたがID6の公共交通のことなんか
も、スピード感と書いたのは私なんですけど、要は結構重要な課題なだけけど年に3
回しか会議がされていないというので、なんだかずいぶんのんびりやっているんじや
ないかという印象を持ちました。それからID59、たぶんこれはどなたも挙げておられ
なかったと思うんですが、市立病院のことです。なんだかいろんところでお医者さん
が足りないとか集まらないという話が挙がっていて、診療科が上手く回っていないと
いうことも聞くんですけど、やはり病院というものは我々にとっては一つの安心と
いうか、そういう点では重要なので、やっぱりもう少ししっかりとした対策というかそ
ういうものを考えてもらうように取り上げてもいいんじゃないかなと思いました。そ
れからもう一つ気になっているのが、ID75 砂像のまちとつとりの推進というやつなん
ですけども、去年も取り上げたんですが今年はさらに数字が悪くなっていて、本当に
これをやっていて大丈夫なのかと心配度がさらに高まっているというのがあって、ち
ょっとこれはこのままのペースでやっても上手くいかないのであれば、根本的な
考え方から見直さないといけないのかなと。この砂像も九州などでは結構あちこちで
やったりしまして、鳥取市がトップランナーだったかもしれないけれど、いつまでも
そうじゃなくなってきたということもあって、どうなんだろうと思っています。

山下恭史委員長：

ありがとうございます。まず皆さんのご意見が多かったもので、市も検討してほし
いというものが、ID35のふるさと納税、それとID13の地域推進型移住定住。そのほか
意見の多かったものでは、ID6の利便性の高い公共交通網の構築、ID21の婚活サポート
センターのあたりが比較的複数ご意見があったものです。今挙げたもので4つになり
ます。

山下博樹副委員長：

全部でいくつできるんでしたっけ。

山下恭史委員長：

4つか5つくらいですかね。

岩田主任：

資料2の上に参考で載せていますが、昨年度まででやった時は4件だと大体20～25分くらいずつという格好です。

山下恭史委員長：

私が説明してなかったんですけど、資料2のところに過去のヒアリングの状況があります。29年1月の時が4件しまして1件当たり20～25分、7月と8月が3件でこれが35分程度ということです。内容にもよりますけれど、事前準備をしてもものによっては少し時間不足かなというものがやはり出てきたりもします。こちらの準備ができていなくて、質問が無くて比較的早く終わったということもないではないですが、大体このくらいはかかると考えてもらえればと思います。ですから、今複数の方が挙げられたもので4件ですので、これで、日程上では20～25分掛かるということになりますので5件まではちょっとできないだろうなということになりますね。

例えばこの日程を、今は1日にしてありますが2日とるとというのは、今後の委員会の日程を考えた時に物理的に可能ですか。

岩田主任：

日程調整をして合うかどうかというところですが。

河口行財政改革課長：

それは構いませんので、皆さんのご都合さえ良ければ回数は増やしていただいて結構です。

川口委員：

29年に1月、7月、8月と3回ヒアリングをしているわけですよね。その3回で10件のヒアリングをされているわけですけど、この10件は委員の皆さんがどうしても聞きたいということで3回にされたのか、まあ1月と7月は半年ほど空いていますが、これはどんなスケジュール感でこういう風になったんですか。

岩田主任：

委員会の任期が2年間ありまして、前期の委員会でしたら28年度から29年度という2年間でした。スケジュールとしては28年度と29年度それぞれでヒアリングをしましょうということは決めておりました。実際の件数に関しては、前半の28年度にまず4件やりまして、コツをつかんでいただいてというか慣れていただきまして、後半はもう少し件数を増やしてやろうと。ただ、一日で取れる時間を考えると3件くらいかなということではらしまして、結果的に後半は7月8月と続いていますけれど、それは6件の分を2回に分けて3件ずつ実施したということです。

川口委員：

平成 29 年 1 月は年度で言うと 28 年度になるんですね。ということは昨年度は 2 回やったということになりますか。

岩田主任：

そうです。

山下博樹副委員長：

今相談しているのは、この 29 年 1 月にやったものに該当するものを決めたいということですよ。ですから取り合えず先に優先して聞くのをどうするかということですよ。

山下恭史委員長：

とりあえず物理的には可能ということですが、1 つあるのが 1 日増えてしまうということ。それからもう 1 つあるのが以前申し上げましたけれど、次の第 7 次行革大綱を市の方が決められますので、それに対する私たちの意見をこの委員会ではやらないといけないということです。28 年度から 29 年度にかけてはそのことがなかったんですが、今回はそれがありますのでそこが日程的に押してしまっ、本来やるべきことができないとなると、これも委員会の大きな使命の一つですから問題です。そのところの日程はどうですか。

岩田主任：

日程的には、次の第 7 次大綱の議論に入っていただくためには、こちらの方で骨子とか案をある程度固めてからということになりますので、そこまで行くとなると実質来年の夏ごろかなという風にはイメージしてスケジュール引いております。ですので、春の間に日程が合えばそこに詰めてやってしまうということはあるかと思えます。

山下恭史委員長：

ということは、日程的にはまあ可能かなというところですね。そうすると、今 4 つ挙げましたけれど、どの順番でするかは置いておいて、再度という声もあるので、これも含めたところでヒアリングの事業選定をしていきます。

山下博樹副委員長：

婚活の評価シートを見ると、今年度の取組として事業の見直しを検討するって書いてあるんですよ。ですからその見直しがどの程度進んでいるのか。もしその見直しが済んでいるのであれば今年度それを聞いても良いです。

山下恭史委員長：

そうですね、時期をずらしても良いし、中身を見てから入れるかどうかをもう一度決めましょう。それは一回目のヒアリングの後で二回目にするかどうかを最終決定すればいいので。ですから、とりあえず婚活も候補に入れたとしてあと二つか三つか。改めてどなたか、他の人の意見も聞いたうえで、私もこれを聞いてみたいというものがあれば言ってください。それから課長さん、総合目標 1 の税収のところの実施計画について

は、委員の皆さんから進捗しているしいんじゃないですかという意見が多いですけど、その辺はどうですか。

河口行財政改革課長：

はい。よろしいと思います。総合目標は 254 億円に到達していないのが現状ですので、本来はここにしっかり力を入れていくべきではあるんですけども、事業としてはそれぞれ進んでおりますのでそれは外していただいて結構だと思います。

山下博樹副委員長：

この総合目標の 254 億円というのがあるんですけど、ここに挙がっている 5 つの ID は、要は本来払うべき人でちゃんと払っていない人、あるいはもうちょっと払ってもらえるはずの人に払ってもらえるようにしましょうという方向での取り組みですよ。一方で、根本的にもっと皆さん稼いでもらってたくさん税金が払えるようになってくださいという取り組みも、ここには出てきてはいないけれど、市の中ではやっているわけですよ。ですからその辺の 254 億円を達成するっていうのは両面から必要になってくるんだと思うんですけど。

山下恭史委員長：

おっしゃるとおり。実は事前に事務局さんともお話ししたんですが、ここっていうのは徴収すべきものが出来ていないというものに対しての取組なんだけれども、本来の税収アップの施策に対してのコメントを本当はしないといけないと。ただそれをやろうと思えば横断的に施策を理解していかないと意見が出てきづらいということがあって、どうしようかなというところで課題として、委員会の中で話が挙げれば検討しようかと思っていたんですけど。

山下博樹副委員長：

なのでその辺のところは ID19 とか ID38 で、前期にヒア済というものですよね。あとは ID76 はまだやっていないかもしれないですね。

山下恭史委員長：

どうしてもということであれば ID37 とか ID38 をヒア済になっていますけれど追っていくというようなこともあるかもしれませんが。あるいは移住定住が対象に挙がっていますのでそれが税収にプラスのところであったりしますかね。

何か、これはしてみたいということがあればおっしゃっていただければと思います。

山下博樹副委員長：

ではもう一つ。ID35 のふるさと納税なんですけど、個人的には私はあまりふるさと納税って良いイメージがなくて、なんでそんなに積極的に取り組むのかなと思うところもあるんですけど、逆にこれを対象としたときに検討の余地があるのかなという思いもあります。だんだんと制約というか規制が厳しくなるという方向になる中でポイント制というのをやり始めたということなので、それ以上にどういう検討の余地があ

るのかなというイメージが持てなかったのでどうかなと思ひまして。もらえるものをもっとどうしたら良いかとかそういう話にしかならないのかなという気もしますが。

山下恭史委員長：

まあこれは皆さん一度聞いてみたいということですので候補にしておきましょう。何か、これはというものがあればお願いします。田村さん何かありますか。

田村委員：

今挙がっている中で再度考えるなら、ID3 と ID37 は興味があります。

山下恭史委員長：

谷口さんどうですか。

谷口委員：

ID75 の砂像のまちとっとりですね。これは少し話を聞いて興味が湧いてきました。

山下恭史委員長：

小草さんどうですか。

小草委員：

ID24 の放課後児童クラブのことが私も興味があります。ちょっと聞いてみたいなど思いました。

山下恭史委員長：

河崎さんどうでしょうか。

河崎委員：

2つ挙げさせていただけるなら ID4 と ID24 です。

山下恭史委員長：

松本さんどうですか。

松本委員：

私は先ほど言ったとおり ID4 と ID24 です。

山下恭史委員長：

徳本さんどうですか。

徳本委員：

私も先ほど言ったものでお願いします。

山下恭史委員長：

そうしましたら、ID4 の鳥取砂丘・いなば温泉郷を核とした観光ブランドの確立であるとか、ID24 の放課後児童クラブ、ID74 の砂像のまち、あとは ID37 の農林水産物の新規販路開拓と言ったところですか。副委員長はどうですか。

山下博樹副委員長：

やっぱり一番気になるのは先ほど言いました ID59 の病院のことです。これは深刻じゃないかなと思ひまして。

山下恭史委員長：

ではそろそろ決めていきます。ID24 の放課後児童クラブ、これは前にも聞きました
がまた聞きましょうか。それと ID3 のシティセールス戦略プランですとか、ID75 の砂
像のまちとつとりのあたりですかね。

河崎委員：

ID4 はやりませんか。7 期でヒアリングした時は DMO 設立前でしたけど、今回は設立
後になりますので聞いてみてもいいかなとは思いますが。

山下恭史委員長：

結構数が多くなりましたね、しんどいかな。

河上係長：

そうですね、1 件当たりの時間を短くすれば出来ますが、そうすると少し物足りなく
なるかもしれません。

山下博樹副委員長：

1 回の委員会は 2 時間で終わらないといけません。例えば今日みたいに時間が延
びると途中で帰らなきゃって言う人もいるでしょうけど、最初から 2 時間半という風
にしておいて、今日は少し長くやりますけれどというのであれば。皆さんがそれで都合
が付けば。

河上係長：

前日もそのように長くさせていただきましたのでそれは可能かと思えます。皆さん
がよろしければそのように設定させていただきます。

山下恭史委員長：

ならこの ID4 も入れましょうか。ということで、ID3、ID4、ID6、ID13、ID21、ID24、
ID75、ID35 の全部で 8 つということになります。他にご意見はありませんか。良けれ
ばこれで 2 回に分けて実施するというので、あと順番は事務局と相談しながら、担当
課からの事前資料等の回答状況も見ながら決めたいと思います。このヒアリング以外
にも聞きたいとか資料がほしいというものについては個別にお願いすれば対応はして
くださいますので、またおっしゃってください。

4. その他

山下恭史委員長：

では対象事業の選定は終了しました。その他というのは何かありますか。

河口行財政改革課長：

よろしいでしょうか。本日はいろいろとありがとうございました。長時間になってし
まいて申し訳ございません。先ほど 8 事業選んでいただきましたので、これからそ
の準備に取り掛かりたいと思います。しっかりと皆様分かりやすいような資料にし
ていきたいと思えます。ただ、少し補足させていただきますと、本日選定方法の説明が

上手にできていなくて大変申し訳なかったんですが、現在二次評価でいただいたものは 29 年度の事業でございます。前期のヒアリングを受けた特に婚活などは 29 年度途中でございまして、そこで議論させていただいた関係で、今の評価の中には反映が来ていない状況でございます。ここではD評価としていますが、実は今少しずつ変えるようにしてきております。また砂像の件ですと今は民間の事業者管理をしてもらってございまして、またプロジェクションマッピングを打ち出すなどして、少しずつですがお客さんが増えるような取り組みをしているところですので、この時点の評価だけでご質問を考えられると、ちょっとまた変わった視点になってしまう可能性もありますので、その辺も資料に添えてお伝えできるようにしたいと思います。本日の事業選定に使った資料の時点から状況も変わってきてございまして、職員も頑張っておりますので、そのあたりもご配慮いただけたらと思います。

山下恭史委員長：

今ありましたようにタイムラグがどうしてもあるので、これはちょっとやむを得ないかなと思います。また出てきた資料で、これはもうあまり意見が出ないなということであるならば、次回の時にまた対象事業を考え直すということもあるかと思っておりますので、そこは進捗を確認しながらやっていきたいと思っております。

5. 閉会

山下恭史委員長：

それでは長くなって申し訳ありませんでしたが、これで第3回の鳥取市行財政改革推進市民委員会を終了いたします。お疲れ様でございました。
